

アフリカの美しさを
発見する旅に出かけよう

interview 2

デコート豊崎アリサさん



写真提供:サハラ・エリキ(以下すべて)

砂漠を歩き、夜は星空を眺める。
日本人にはそんな旅の時間が必要だ

文・インタビュ／塚田恭子

ラクダのオーナーが
砂漠に生きる人たちの
生活を支える

1998年、4カ月間にわたってニジェールの塩キャラバンに同行したのをはじめ、この10年間、さまざまな形でサハラへの旅を重ねてきたデコート豊崎アリサさん。砂漠の現実を伝えようと2006年3月に設立したサハラ・エリキ協会の活動のひとつ、「ラクダ・オーナープラン」は、砂漠に生きる遊牧民・トゥアレグの人たちに惹かれ、彼らが直面している問題を知る彼女だからこそ発想できた、新しい援助のあり方を示唆するユニークなプランだ。

「サハラの観光はシーズン（10〜4月ごろ）が決まっているので、観光だけに依存すると、残りの半年間、彼らは失業状態になってしまうんです。でも、彼らはラクダが本当に好きで大切にしているし、砂漠の生き方にも精通している。それなら自分のラクダを持って世話をすれば、オフシーズンも仕事ができると思っただけです」

日本人を中心としたオーナーが購入したラクダは、無償でトゥアレグのラクダ使いに提供され、シーズン中はサハラ・エリキが企画したラクダ・ツアーで活躍。オフシーズンは、ラクダ使いとともによい牧草地を巡りながら、次のシーズンに向けて準備を整える。

トゥアレグの
アイデンティティは
ラクダと砂漠にある

一口にトゥアレグといっても、その生活は地域によってかなり異なるという。昔ながらに塩キャラバンが行われる地域がある一方、サハラ・エリキのベースキャンプ地でもあるアルジェリア西部のオアシス都市ジャンネットのように、都会化が進む地域に暮らすトゥアレグ族のあいだでは、テレビなどに代表される文明の道具も浸透している。

だが、ひとたび砂漠に出れば、彼らは完全に砂漠に適応し、ラクダを使いこなす。そのギャップが面白かったとアリサさんはいう。

「トゥアレグの男たちにとって、ラクダはただ単に移動や荷物を運ぶための道具ではないんです。ラクダを飼うことは誇りであると同時に社会的な地位を示すように、彼らにとって、ラクダはアイデンティティそのものなんです」

そして、こうつけ加える。

「感動するのは、わたしたちには『無の世界』のように見える砂漠に對して、彼らがすごい知恵を持って生きていること。控えめだけど誇り高く、クールなのにダイナミック。トゥアレグの男たちのパーソナリティは、まさしく砂漠にあるんです」

携帯電話もインターネットも通じない——、そんな日常からディスコネクション（断絶）される場所



これが正しいラクダの乗り方。足をラクダの首に置いて操る。想像以上に楽な姿勢で疲れない

HAMIDASHI ● INFO ラクダのオーナーになるには？ その1 デコート豊崎アリサさんが設立したサハラ・エリキ協会の推進する「ラクダ・オーナープラン」。希望者がオーナーとなってラクダ1頭を購入し、名付け親となり、トゥアレグの人たちに育ててもらシステム。これまでに多かったのは、ツアー前に写真でお気に入りのラクダを選んでオーナーとなり、実際に現地を自分のラクダで旅をする、というケース。雄ラクダは300〜500ユーロ（5万〜8万円）、雌ラクダは250〜350ユーロ（4万〜5万5000円）程度が目安だが、季節や市場の事情で変動が大きいという。sahara-eliki.org

道祖神が
創立30周年を
迎えました!

道祖神創立30周年企画 草の根アフリカ応援団30

もっと聞きたい・見たい・話したい・知りたい!
官製のイベントではなく、
生活目線でアフリカの国々を見つめたい! 理解したい!

アフリカ旅行を専門に作り続け30年、身の丈の範囲でアフリカの国々との交流を深め、アフリカの人々にもお世話にもなってきました。

道祖神創立30周年を機に、形式だけではなく、一過性でもなく、そこに住む人々や生活を中心に、その国の真の姿を掘り下げ、少しでも多くの日本人に紹介できればとの想いから、1週間ごとにわって各国を紹介する週間を企画致しました。

1カ国1週間を原則として、1年以上をかけて取り組みたいと考えております。

在日大使館、元居住者、友好協会、関連するNGOやNPOの協力を仰ぎながら、お互いが少しでも理解しあえる企画になれば幸いです。どんな形にせよ、その国に興味や関心を持ち、訪問することが、交流のきっかけであり、最大の援助になると信じておりますし、その国への旅行者を少しでも増やすことが、私どもの使命と感じております。

トップバッターは、アルジェリアです。

《ALGERIAN WEEK》企画概要

期間：2008年9月26日(金)～10月5日(日)(仮)
場所：アフリカン・レストラン《カラバッシュ》(東京・浜松町)

●プログラム(予定)

9月26日(金) 18:00～20:00 オープニング

ラマダン・ナイト 第1回

ラマダン中の家庭の夜の食事は……?

27日(土) 16:00～19:00 トゥアレグ・ナイト

トゥアレグ人の生活、食事、音楽……の紹介

併せて、背景となるサハラ観光(タッシリ・ナジェールやホガー)の紹介

28日(日) 14:00～18:00 アルジェリア映画を見る夕べ

29日(月)、30日(火)、10月1日(水) 14:30～18:00

アルジェリアを知るための文化講座 1日2テーマ 合計6テーマを予定
(在日アルジェリア大使館スタッフ、友好協会スタッフ、在住経験者等を予定)

10月2日(木) 18:00～20:00 アルジェリア料理とワインを楽しむ夕べ

3日(金) 18:00～20:30 アルジェリア音楽《ライ》を聴く夕べ

4日(土) 17:00～20:00 ラマダン・ナイト 第2回

5日(日) 14:00～17:30 アルジェリア映画を見る夕べ

18:00 クロージング

【アルジェリア・ウィーク以後の予定】

10月14日～19日ごろまで ウガンダ・ウィーク

11月4日～9日ごろまで ケニア・ウィーク

11月17日～23日ごろまで モザンビーク・ウィーク

* 講演のプログラムや内容は、都合により変更する場合があります。
* 講師のご都合により、プログラムの日時を変更する場合があります。
* 当企画の最新情報や確定情報は、弊社 WEBにてご確認ください。
www.dososhin.com

応援ボランティア募集!!

当企画に携わりたい、
関わりたい!!

ご自身でできる範囲でOK。
一緒に盛り上げてください。



エリキ・キャラバンの旅。毎日5～6時間歩く。お昼には食事をとり、暑い日差しを避けて休憩する



タッシリ・ナジェールの奇岩のあちこちに残された岩絵。サハラが豊かな緑に覆われた時代を偲ぼせる

であることが、アリサさんにとって砂漠の何よりの魅力であるという。「ラクダに乗って、砂漠を歩き続け、夜は炭で焼いたパンやおアシスの野菜を食べ、3杯のお茶を飲む。車もなく、静かな星空の下で語り合い、1日移動した心地よい疲労感とともに9時には就寝。1週間滞在するだけでも精神がクリアになることは間違いないし、きっと日本人にはそういう時間が必要じゃないかと思えますね」

ところが数日間、ラクダに乗るとお尻が痛くなるのではないかと心配する向きも少なくないようだが、正しい姿勢で乗りさえすれば、決して痛くはならないとのこと。「わたしたちのツアーでは、最初に乗る方を教えたら、あとはお客さんが自分で手綱を引いてラクダ

ラクダで何日旅しても
お尻が痛くならない
コツがある

を動かします。これは声を大にしていいますけど、今までお尻が痛くなったという人は一人もいませんから、正しい乗り方をすれば100%大丈夫ですよ(笑)」

デコート豊崎アリサさん

1970年パリ生まれ。父親はフランス人、母親は日本人。8歳のときに初めてアフリカの大地を踏んできて、冒険好きの父とともに第三世界を巡る。砂漠化防止計画に通訳として携わりながら、塩キヤラバに同行。2006年に立ち上げたサハラ・エリキのラクダツアーには、道祖神のツアーでも参加することが出来る。



ダカール駅



バマコ駅

ツアー条件

■最少催行人数:7名 ■添乗員:同行します。 ■食事:朝食6回、昼食3回、夕食5回 ■利用予定航空会社:エミレーツ航空 カタール航空 ロイヤルエアーモロッコ セネガル航空 チュニジア航空 大韓航空 欧州系航空会社 ■利用予定宿泊施設:クロワド・スト(ダカール) マンデ(バマコ) 一般家庭宅(セネガル、バマコ)または同等クラス ■一人部屋追加料金:18,000円(ただし、民泊中はお受けできません)

*現地での基本行動は費用に含まれますが、フレキシブルな日程を楽しめる方のご参加をお待ちしています。
*移動には、原則として地元の公共交通機関を利用します。
*食事も朝食はホテルを原則としますが、昼・夜は、地元のレストランを利用します。

30周年記念企画
「Do Do World News」
読者対象企画

のんびり
ダカール&バマコ
食い倒れ 10日間(予定)

…不定期便の国際列車の旅…

着だおれ・食い倒れのダカールでは、地元で評判のローカル・レストランを探索、食い歩き。セネガル相撲を見学したり、夜はアフリカン・ポップスのライブを探したり……、と予定のないアドリブの旅。バマコ行きは国際列車も最近の運行は不定期に。週に一便は動くようなので、バオバブ畑とサバナを走る列車にもトライしてみます。

バマコ市内も同様に昼も夜も濃遊。マリでもセネガルでも、現地のご家族を訪問、地元との交流もたっぷりです。

■出発予定日：10月23日 または 11月13日

■予定代金：333,333円

(燃油サーチャージや空港税は含まれません)

燃油サーチャージの目安 75,920 ～ 86,320円

他に必要な空港税などの額 18,460 ～ 18,750円

*出発日及び旅行期間は、列車の運行予定により変更されます。

HAMIDASHI●INFO ラクダのオーナーになるには? その2 オーナーはこのほか、毎年、餌代として300ユーロが必要になる。購入後、権利の譲渡は自由。現在、アリサさんの頭を悩ませているのは、ジャネット付近でここ数年続いている干ばつのこと。トゥアレグの男たちは食用となる草が生える場所を詳しく知っており、巧みにラクダを移動させ、体力づくりにいそむ。通常の気候であれば、乾季のときだけ餌を購入すれば済む。ところが、異常な干ばつのため、1年のうち、かなりの時期、餌となる草や飼料を購入しなければならなくなっているという。アリサさんは東京にいたときも、サハラの天気が気になる様子。この日、東京を襲った集中豪雨を恨めしそうに眺めていた。